

# ふれあいひろば

松川町社会福祉協議会 Tel 0265-36-3778 編集・発行 ボランティア連絡会 編集部

\*ボランティアだよりは皆様からご協力いただいた共同募金配分金で発行しています。

## ★☆☆ 新年度スタート! ★☆☆

ボランティアでつながる心と心。

温かい想いが輪になって広がっていきますように…

この4月から再度代表をさせていただく事になりました。

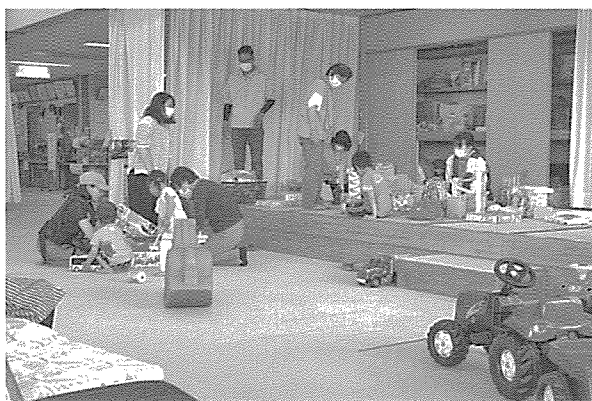
コロナ禍が収まってようやく以前の活動ができるようになってきました。時間の経過により活動の形も少しずつ変わってきたグループも見られますが、日々変わりなく長い間活動を進めてこられた皆さんの姿や気持ちは、多くの方々の心に温かいものとして、届いている事と思います。

さてボランティア連絡会の活動ですが、昨年に引き続き”手話を学ぶ”機会を持ちたいと考えています。大勢の皆さんにご参加いただきたいと思います。

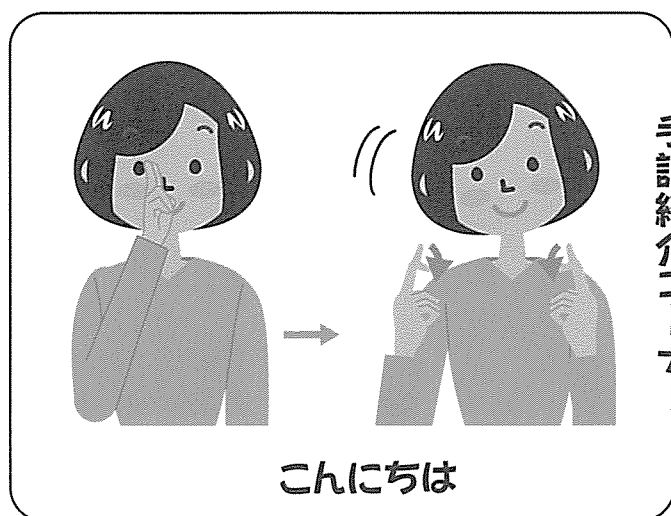
又今年には新たに『ぱんだっこ』という子育て支援のグループが連絡会の仲間に入って下さり、本当に嬉しく思っています。

それぞれのグループで課題もあるかと思いますが、今年も元気に活動の輪をつなげていってほしいと思います。

ボランティア連絡会 会長 北原紀子



おもちゃ図書館



こんにちは

”ぱんだっこ”さんの活動紹介は4ページに掲載♪

# 飯伊ブロックボランティア交流研究集会

@大鹿村交流センター

令和5年度の飯伊ブロックボランティア交流研究集会が、令和6年3月9日(土)、12時30分から大鹿村交流センターで開催されました。道の駅の前に位置する所で、当日は11人のボランティアの代表や会員の皆さんが参加されました。

オープニングセレモニーでは、なんとあの大鹿歌舞伎の景清が舞台を飾り、歌舞伎さながらの演舞を披露してくださいました。

13時45分～ 喬木村の笑って健康『笑いヨガ』の発表があり、会場の参加者も一緒になって、手をあげて大きな口を開け「ワッハハハ〜」と何度もやるうちに、恥ずかしさも吹っ飛び、隣の方と笑い合っ楽しいひと時でした。

飯田市の『にこにこフレンズ』の皆さんの二胡の音色には、心洗われました。

高森町の『柿丸シスターズ』は、作詞作曲された歌を、柿丸君と一緒に踊ってくださいました。

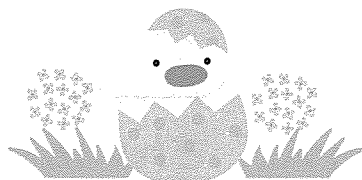
14時40分～ 『地元や地域への恩返し～自分にできること』と題して合同会社風の谷の大鹿、長野県職員の方の北澤 淳さんから、お話を伺いました。

県庁に勤めながら、副業やボランティア活動もされている、多才な方でした。

2011年には、県庁の「ボランティア部」事務局として、バスを仕立ててがれき撤去、交流事業に参加され、人口1000人以下、深刻な高齢化が進むこの村独自の文化と暮らしを未来へつなぐため、村の中と外から活動していると発表してくださいました。若者のエネルギーと、まだまだ若い皆さんの底力を感した集会でした。

お土産もたくさん買うことができ、楽しい半日でした。

竹内恵美子





## ボランティアは生きがい？

何原弓絃

飯伊ブロックボランティア交流研究集会在三月九日大鹿村で行われ  
久しぶりに参加した。文字通りボランティアの交流である。

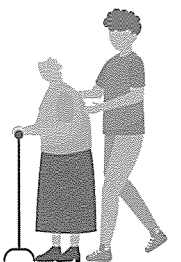
活動発表は三つ。喬木村から「笑って健康 笑いヨがし体を動かし  
皆で大声で笑いあう。普段の声も自然と大声になるように、喬木村グ  
ループからは一段と大きな声が響いていた。飯田市からは、プロの指  
導を受けているという二胡のグループが、心豊かになる音色での演奏  
を披露された。毎月二回、飯田創造館で練習に励んでおり、飯田下伊  
那を中心に演奏活動を行い、地域のサロンなど要望があれば声かけを  
との呼びかけもあった。

高森町からは、参加者自らが作詞と作曲そして振り付けをしたという  
「柿丸君サンバ」が、それは賑やかに大きな身振りで披露された。踊  
りの後に声かけすると「息切れがするわ」と笑っていた。

皆さんそれは楽しそうに発表され、観客として楽しむことができた。  
元気で長生きの条件に「生きがい」が挙げられている。三つの発表か  
らそのことを強く感じた。

最後に大鹿村出身の若者の講演があった。「地元や地域への恩返し  
自分出来る事」県職として働きつつ、過疎化が進む故郷で人を呼び  
込むと、レストラン経営に関わっている。訪れる人が増えつつある  
との嬉しい報告だった。「生き方に後悔したくない。今できる事を精  
一杯」と言う。80才に手が届く私は若者から宿題をもらった気分。

今も時折この若者の顔が浮んでくる。



飯伊ブロックボランティア研究集会在大鹿村で開催される  
ことを知って、参加させて頂きました。

実家が大鹿の友人からお話を聞く機会もあり、興味もありま  
した。盛り沢山の内容で開催された。

有名な歌舞伎を間近で見せて頂き、立派な衣装に「さすがと  
思いました。協会長さんのお話の中で、大鹿歌舞伎は、三百  
年余りの伝統があり、村の人達の熱心な協力により伝承され  
てきた。江戸から明治に禁止令が出て、多くの歌舞伎が途絶  
えてしまったが、人里離れた地域の為中央の目が届かず、今  
日迄大切に伝承されたとお話、県外からの見学者が多いこ  
とに納得です。村には移住された方も多く、ボランティアに  
も協力して頂き力になっていとおっしゃっていました。

喬木村の「笑いヨがし」は会場全体で笑いながらの盛り上げ  
りで会場は和やかな雰囲気。

講演をされた北澤 淳さんは、大鹿生まれの方で、長野県庁  
職員で、職員の中でボランティアの組織を立ち上げ、全国各  
地の災害被災地へ出勤されている。又県の許可を得て、合同  
会社「風の谷の大鹿」の共同経営をしているそうです。

R.S





はじめまして！「子育て応援ぽんだっこ」です。今年できたばかりの新しいボランティアグループです。私たちは子育て中のお母さんやそのご家族、また、将来のことを考えている若い皆さんとつながっていきたいと思っています。

その一つとして、第1子で生後2カ月から5カ月までの赤ちゃんを持つお母さんのための集まり「親子の絆づくりプログラム『赤ちゃんが来た!』(愛称、BPIプログラム)」を開催します。

このプログラムは、初めての子育てで悩んでいることや感じていることを、同じお母さん同士で話し合ったり、学んだりする内容になっています。

松川町では2回開催しています。参加された方からは、「赤ちゃんと2人だけでずっと家にいたが、出かけるきっかけができ、仲間もできて嬉しい」「赤ちゃんのことがより可愛くなった」「子育ての楽しみが増えた」など感想をいただいています。

町内には子育てを応援するサークルがたくさんあり、また、長く続けられていることに「すごい！」の一言です。皆さんから色々教えていただきながら、私たちのできることを少しずつですが、始めていきたいと思っています。

どうぞよろしくお願ひ致します。



ホーイ元気？！

家族の新聞

昨年、家の建て替えを機に娘家族との同居生活が始まりました。

主人と二人暮らしをしていたところに一気に5人増えて7人の大所帯となりました。

楽しかった事や嬉しかった事、大変すぎて戸惑ってしまった事など色々ありましたが、一年過ぎてみればみんな懐かしい出来事です。「孫と暮らせるなんて中々ないよ」と言われ、孫達の姿を毎日追いかけて、あつという間の一年でしたが孫達の成長を間近で見られてとても幸せでした。

この4月、ようやく完成した新しい家に娘家族が戻っていき、我が家は元の静かな生活に戻りました。うるさい程のにぎやかさが懐かしく、寂しさと物足りなさを感ずる毎日です。



北原 紀子 トミ